

家族も被害者

犯罪が起きたときに、傷つけられたり、命を落とした人を「被害者」といいます。また、傷ついたり命を落とした本人だけでなく、その家族や周囲の人も同じように傷ついている被害者です。

ドラマ『友達が被害者になったら』では、事故で弟が命を落とし、その姉のさやかや両親も、事故のことで大きなショックを受けて苦しんでいました。

大切な家族が、とつぜんの犯罪によって命を失ったとき、それを受け入れるのはたいへんむずかしいことです。命が助かったとしても、ケガをして苦しんでいる被害者を前にして、家族も同じくらい悩み苦しむことになります。

犯罪の被害を直接受けた本人だけでなく、その家族も苦しんでいる被害者であることを、忘れないようにしましょう。



日本でおこっている犯罪の件数

日本では、どんな犯罪がどれくらい起こっているのでしょうか。平成20年に警察に届けられた犯罪のうち、窃盗、交通事故、ものを壊すこと、殺人・暴力など、性に関する犯罪、放火件数は次のとおりです。このほかにも、脅迫や恐喝などの犯罪があり、それらを合計した全ての犯罪の発生件数は、1年間に約2,533,400件にもなります。それだけ多くの方が「被害者」になっているのです。

| | |
|--|-------------|
| 窃盗 | 約1,372,800件 |
| 交通事故 (自動車運転過失致死傷等と危険運転致死傷) | 約715,300件 |
| ものを壊すこと (器物損壊) | 約178,200件 |
| 殺人・暴力など (殺人、強盗、傷害、暴行) | 約65,500件 |
| 性に関する犯罪 (強姦、強制わいせつ、公然わいせつ、わいせつ物頒布等) | 約11,900件 |
| 放火 (放火、失火) | 約1,700件 |



法務総合研究所「平成21年版 犯罪白書」より